

小正月行事 あれこれ

雪中田植え



雪の上に「豆がら」と「わら」で田植えをする。しめ縄を張り、御幣(ごへい)を立てた田は「神の田」をイメージするもので、田の神様に稲の豊作を祈願する。

なりきせめ



成木責め

団子を煮た汁を持って、実の成る木(果樹)に「成るか成らねが、成らねごんたら(成らなかつたら)、ぶった斬るぞ」と鉦を木に振り落とす真似をする。すると、子供たちが「成りもうす、成りもうす」と、木の陰から叫ぶ。木の鉦を当てたところに汁をかける。その年の実りを約束させる呪文である。

でんがく



豆腐やこんにゃく、餅を串にさして焼き、味噌をつけてごちそうに。

田楽

だんごぎかさざり

団子木飾り



団子木に団子を挿して座敷に飾り、秋の豊作並びに養蚕(繭)の豊作を祈願する。

小正月とは



小正月とは、旧暦の正月の事で15日正月と言われている。小正月に行われる行事は、農耕の模擬をして豊作を予祝するものが多い。これらの行事は、比較的豊かで平穏だった江戸時代後期に、日常生活を楽しいものにするための、風俗習慣が庶民生活に根付いたものと言われている。



民族衣装で伝統行事を教える老人クラブの方

行事名	どんなこと?	何のため?
雪中田植え	しめ縄を張った雪上の神の田に、豆がらとわらで田植えをする	稲の豊作を祈願
団子木飾り	団子木に団子を刺し、船煎餅・昔の銭・ふうせん等を飾る	秋と養蚕の豊作を祈願
成木責め	果樹に霊を認めて威嚇し、その年の実りを約束させる呪文	果樹の豊作を祈願
鳥追い	鳥追い歌を歌い、杓子(しゃくし)と呼ばれる棒で鳥を追う仕草をする	農作物の害鳥を追い払う
田楽	豆腐やこんにゃく、餅を焼いて味噌などをつけて食べる	秋の豊作を祈願し予祝

農村の技と伝統

河北町



1 毛並みの質感や躍動感がすばらしい、干支のわら細工 2 笑顔が素敵な石川たかさん、なんと 86 歳 3 巳(蛇)のわら細工づくり

冬の風物詩 わら細工づくり

山形県のほぼ中央に位置し、紅花などで有名な河北町。ここに、わら細工の干支を作るおばあちゃん(石川たかさん 86 歳)がいる。このわら細工は、たかさんのご主人(清治さん)が、40 年以上前に考案したもので、清治さんが亡くなってからは、たかさんが、毎年コツコツと作り続けている。

わら細工は、清治さんが書いた設計図をもとに作られ、迫力と躍動感がある干支にできあがる。また、未(羊)や申(猿)などの毛並みは繊細で、わらを金ブラシですいて、本物のような質感に仕上げられている。

年末には、作業風景がテレビに流れ、冬の風物詩にもなっている干支づくり。これからも末長く続けてもらいたい農村の技である。

伝統行事を伝えたい

一方、河北町北谷地小学校では、子どもたちが雪中田植えや団子木飾

紅花資料館では、石川さんによるわら細工体験も受け付けている。(要予約)



お問い合わせ先 紅花資料館
山形県西村山郡河北町谷地戊 1143
Tel 0237-73-3500

りなどを行っている。これは、農村地域に住む子どもたちに「昔から伝承されてきた伝統行事を継承したい」という思いから、河北町老人クラブ北谷地地区連合会の方が講師となり、学校行事の一環として体験学習を行っている。